

米国総領事と遺愛生 12 名が懇談

10月24日（水）に札幌米国総領事のジョン・リース氏が遺愛を来訪しました。遺愛に来るのは2度目ですが、初めて訪問した時からすごく懐かしさを感じたそうです。それは正面の本館の建物がアメリカ東部のニューイングランド地方の建物とそっくりで、キャンパスの雰囲気も同じだからだそうです。まるで故郷に舞い戻ったような気がするとおっしゃっていました。遺愛の本館は105年以上前にハーバード大学出身のガーデイナーという方の設計した建物ですので成る程肯けます。前は休日で、遺愛生と接する機会はありませんでしたが、今回はぜひ遺愛生とぜひ直接話しをしたいとのことで、懇談の機会が設けられました。

リース氏の自己紹介の後、遺愛生12名が英語で自己紹介し、懇談となりました。外国語をどのように勉強したらよいか？アメリカ留学のメリット・デメリット、日本での英語早期教育はどう思うか？モチベーションを高く保ちながら勉強を続けていくにはどうしたらよいか？日本と中国の摩擦の問題をどう思うか？文化摩擦をどのように克服していけばよいか？など鋭い質問が遺愛生から英語でなされていました。それら一つ一つにリース氏は時には英語で、時には日本語で、丁寧に、誠実に答えていました。参加した生徒に終了後に感想を聞くと、「アメリカ総領事と聞くと何か怖そうなイメージを持っていましたが、親しみやすく、優しい方でした。」「日本語がとても上手で驚きました。」「質問に対する返答がとても的確で、優秀な方だなと思いました。」などなど。1時間ちょっとの懇談会でしたが、とても有意義な機会でした。

2012年10月27日

